

## 第31期目録委員会記録 No.5

### 第5回委員会

日時：2007年12月8日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，木下，平田，古川，横山，渡邊

<事務局>磯部

#### [配付資料]

1. NDLの書誌調整連絡会議について（9ページ-A4，中井委員長）
2. LCのワーキンググループの報告について（37ページ-A4，平田委員）
3. RDAの新しい構成（7ページ-A4，古川委員）
4. IME-ICCについて（5点-A4，渡邊委員）
5. ISBD統合版の例示の作成について（6点-A4，稲浜委員）
6. 第31期目録委員会記録No.4（2ページ-A4，事務局）

#### [報告・連絡事項]

1. NDLの書誌調整連絡会議について、  
中井委員長から資料1に基づき書誌調整連絡会議について報告があった。今回の特集は「書誌データの作成及び提供」で、JAPAN/MARCの需要の減少、データ作成への外部資源の導入、情報検索の改善のための情報内容の充実などについて意見交換を行った。
2. LCのワーキンググループの報告について  
平田委員から資料2に基づき、LCの書誌コントロールワーキンググループの勧告報告書草案についての報告があった。目録作成の効率化、資料へのアクセスの拡大、WWWの技術の位置づけ、FRBRの実現、図書館情報学専門職の強化などの勧告が行われた。
3. RDAの新しい構成について  
古川委員より資料3に基づき報告があった。新しいRDA案の構成はパートA、Bの二部構成から、FRBRの実体の各属性の記録とこれらの実体の間の関連の記録に二分する、10のセクションに置き換えられることになった。
4. FRADについて  
横山委員よりFRADの現在の状況について、IFLAダーバン大会でのワーキンググループについての報告などがあった。

#### [検討事項]

1. IME-ICCについて  
渡邊委員より資料4に基づき、IME-ICC5を受けた国際目録原則草案及び用語集の修正案の投票要請について説明があり、質疑応答と意見交換を行った。渡邊委員と横山委員がそれぞれ回答を行う。
  - ・ 5.1の「normalized forms」という表現が「authorized forms」になるのに異存は

ない

- ・ 統一タイトルについて...目録利用者になじみのある言語でよいのではないか。
- ・ 分類記号を「Additional access points」に格下げ...件名と分類で扱いが異なるのはおかしい。分類記号が書誌レコード上に記載されていないことが多いための現状追認か。件名は狭義の意味かキーワードを示すのか分からない。
- ・ 出版年を「Indispensable access points」に戻したのなら、分類記号も残してもらいたい。
- ・ 「Indispensable access points」を「Essential access points」に...「Essential」の方が本質的なものを表現する感じがする。

## 2. ISBD統合版の例示の作成について

稲浜委員よりISBD統合版の日本語例示の作成について説明があった。エリアごとではなくレコードごとの例を、1つのGMD に対し2つずつ出し、実際に存在するものの例を作成する。稲浜委員が収集したNDL OPACデータを元に、例が見当たらないHologramを除いて、各人が分担して例示を作成することになった。

次回の委員会の予定

1月26日(土)

以上